

## 第4回「市長の秋葉区ミーティング」(区民)の概要

### テーマ『まちなかの活性化』

- ・日時 平成21年2月6日(金)  
午後1時30分～3時
- ・会場 秋葉区役所601会議室
- ・発言者数 5名
- ・傍聴者数 24名

#### 【発言①】

- 地元の高齢者で特に女性の方は地元の商店街で買い物ができれば一番いいと言っている。郊外のショッピングセンターは家族の送迎が必要で時間の制約があるが、地元商店街は近所の人や友達と誘い合って自由な時間で買い物や食事ができるというのが魅力だと思う。インターネットで買い物ができる時代になったが、売り手、買い手の会話もなければ、感情もない。地元商店街で買い物をすれば会話も生まれコミュニケーションがとれる。商店街の活性化では賑わいが一番重要だと思う。
- 例えば、新たに出店をしたいという人に対して行政から改装費用や家賃の補助も空き店舗対策になるのではないかと思うし、一軒の店で買い物をして、そのレジ袋を持って次の店には入りづらいので、一時預かり所のようなもので空き店舗を活用することも考えられる。また、ショッピングカートでどこから借りてもいいし、返してもいいということも活性化になるのではないかと思う。
- 「まちの駅ぽっぽ」は、まちなかの休憩所として一日に100人程度利用されており、サービスとしてPRしていないが、買い物途中で荷物を預かってくれという要望が非常に多く、預かりを行っている。これは経費がかからないことから、多くのお店で行えば、高齢者にとってやさしいまちになる。さらにショッピングカートの共有化を図れば利便性が増す。

#### (市長)

- 多くの商店街が大変厳しい状況である。行政の機能が郊外に行き、また集客施設も車社会に対応し郊外に行った。商店街を支えてきた住民も大量に郊外の住宅地へ流出した。
- まちなかの商店街の活性化は、郊外型大型店の進出の抑制だけでは難しいと考えている。商業の力以外として、福祉施策の「地域の茶の間」を商業支援施策としても活用できるのではないかと考えている。世話をする人がいれば積極的に空き店舗に入ってもらいたい。そういうことをできる人がいるかどうか、行えるネットワークがあるかどうか、行政が積極的に問いかける時期に来ていると思う。
- 子どもも同じで、放課後児童クラブとして学校の施設で支えているが、これからは地域のまちなかに子どものたまり場が必要だと思っている。新年度は子どもが創作活動ができる場を考えているが、地域で数人の世話役・先生役がいれば、多少の支援を行政が行い、そこに子どものたまり場を作ったらどうかと思う。いい活動を

行っているところは、まごころヘルプのような有償ボランティアも考えられる。運営を行っていただけるのであれば、積極的に意見交換をしていきたい。

- 白山神社の近くの上古町が面白い商店が多いということで注目されている。上古町を総合学習で活用する動きが新潟小学校や付属小学校で出てきた。子どもたちが商店街に触れることで愛着が沸く。子どもたちが地域の商店街の大切さを理解すると、地域で買い物をしようと両親に言ってくれる。学校と地域のつながりをつくる時に、総合学習で商店街を知ってもらうことは効果は大きいのではないかと感じている。また、亀田の小学校では地域の祭りに子どもたちが参加しなくなっていたが、2年くらい前から参加するようになったと聞いている。祭りは地域の最大のつなぎ役だと思う。もっと地域との接点を増やせば子どものためにもなる。
- 商業地としての機能を高めることでは、「お休み処」があれば「お茶のみ処」にもなる。トイレも必要。プラスして荷物の預かりを自分の店で行ってもいいとなれば、近場で預けられコストもかからない。郊外型大型店ができない顔なじみになり対応できることが商店街の大きなポイントだと思う。

### 【発言②】

- 京都では高齢者にFAXを無料で提供し、FAXで注文をとっている商店街がある。商工会などの本部にFAXが届き、各店舗へ連絡して配達してもらうというシステムだったと思う。人が来るから活性化するというのと相反するが、必要なことではないかと感じている。

### (市長)

- 秋葉区で策定している「拠点商業活性化推進事業計画」でも宅配システムはメニューとして取り上げている。皆さんから実施できるように高めていただき、こちらでも土台づくりで支援が必要か勉強させていただきたい。秋葉区がトップランナーになるくらいの気持ちでやっていただきたい。
- 昨年の10月に北欧の研究者で東京大学の神野直彦先生に市役所で講演してもらった。北欧では地域の商店がなくなったら誰が一番大変な思いをするのか地域の方は分かっているから、少し割高でも地域で買い物をしている。少しでも安いものを買うに行くことと地域で買い物をすることでは、どちらが賢いかということに神野先生は問いかけていた。

厳しい経済環境になったからこそ、域内で調達できるものは調達して、域内で血液を循環させる。商店街の方にも頑張ってもらい、商店街としてどうしようもないところは行政が福祉や子育てを含めて、まちなかを元気にするにはどうしたらいいか、ここで頑張らないとずっと安心して暮らせる新潟市が絵空事になってしまうという重要な時期であると認識している。

### 【発言③】

- 小須戸の町屋は百年も変わらず残っており、現在、コミュニティ協議会と協力し

てマップを作っている。また9月に町屋と路地めぐりという企画を進めており、町屋の空き店舗で昔の小須戸の写真を展示する。空き店舗対策になるし、人が動けば賑わいができる。

**(市長)**

- 小須戸は川湊という面影が町屋という形で引き継がれている。水と土の芸術祭を契機にこれらに光をあて多くのところでまち歩きが始まってほしいと思っている。まち歩きには案内人や昔語りをできる人が必要になるが、今年は大観光交流年で水と土の芸術祭もあり特別なピークの年と考えて、案内人や昔語りをできる人がどれくらい集まるのかを確認していただければ、来年以降、経験が生きてくる。現在、水と土の芸術祭の実行委員会では地域イベント支援として50万円を上限に事業の提案を募集しているので応募してほしい。

**【発言④】**

- 今年にはいつ食の陣を春と秋に行う。当日座では春は植物園で行っているが、今年秋にまちなかで行う予定にしている。参加店も一昨年は54店舗、昨年は58店舗に増えている。地域の食材を加工して、おいしい料理でお客様を迎えたい。

**(市長)**

- 昨年、にいつ食の陣の当日座も相当盛り上がっていた。食材にこだわって開催していただいているので、頑張してほしい。
- にいがた食の陣はスタートして20年で、ようやく首都圏からも来られる方が始めた。首都圏から来られる方に新潟市にどれだけ滞在してもらえるか、今年チャレンジの年になる。天地人のゆかりの地を楽しんで歩いてもらうようなことを岩室からトップランナーで頑張ってもらおうと、水と土の芸術祭の参考となる事例になるのではと思う。その時におにぎりを出したらいいのではないかと考えている。東京から来た人は新潟のおにぎりをすごく喜ぶ。おにぎり2個と地域の一品がついて、これをワンコインで味わってもらおう。水と土の芸術祭でまち歩きをやったら必ずおにぎり、国体でも花に誘われてまちを歩いて、おにぎりに出会って、また新潟が気に入ったということをやれないかなと考えている。

白根の大凧も今年天地人凧合戦になり、NHKが全国に大きく報道してくれる。堤防は限りがあるので、30数万人の観客をいきなり50万人にはできないので、お昼に凧合戦までできないかもしれないが、食で満足してもらうような工夫をやるかいのある年だと思う。

**【発言⑤】**

- にいつハロウィン仮装まつりの実行委員会は、人が人を呼び、商店街の後継者だけではなく、若い女性の方も入ってきている。その方がお子さんを連れてきて、子どもたちが楽しめて、夜は大人が楽しめる。若い世代の大きな祭りに育てていきたい。

- 昨年の10月に、新津あおぞら市場をはじめて行った。簡単に言うとフリーマーケットだが、商店街の目抜き通りを通行止めにして、フリーマーケットと同時に食でも賑わった。JRディステーションキャンペーンに合わせて10月に行くが、5月と7月にも予定している。いろんなイベントと連携を図りながら、まちなかの新しい魅力を発信していきたい。

(市長)

- イベントで新潟に来るということは、買い物をする前提で来ている。いいお土産があるか、よそで手に入らないものがあるか。例えばおいしい野菜、新鮮な野菜があることは首都圏の人はほとんど知らない。これを新鮮なまま届けられれば野菜類も立派なお土産になるのではないかと思う。プチヴェールも他ではなかなか手に入らないということでお土産の希少価値は高まるかもしれない。国体などで物販のテントが並んでいて、地域のものを買って送り届けてもらうようにしやすくすることもそれぞれの地域で考えていただきたい。JAさんのほうがやりやすいかもしれないが、そこに事業者の知恵を入れて、よそから来る方に新潟のよさを知ってもらう。ぜひ農業関係者と一緒になって、食と花をお土産にしてもらいたい。

【発言⑥】

- 新津にはJRの車両製作所や鉄道資料館があり、鉄道祭りも開催されている。もっとアピールすれば大勢の人が来るのではないかと思う。またSL「ぼんえつ物語」号の運行がない日はできれば新津駅の構内に常駐させておいて、皆さんに公開するというのもアイデアだと思う。

(市長)

- 少なくとも数年前に比べて新潟市とJRとの信頼関係はすごく強くなったと思うが、相手があることなので、JRにも利点になるようなことを言わなければならないと思う。JRはSLにたくさんの人から乗ってもらわなければ廃止ということになるので、新津はJRのこと考えて一緒になってやってくれるねとJRから言っていただくように更に頑張っていくことが必要だと思う。

2014年問題は新潟市にとっても重要な問題だが、JR東日本にとっても大変重要な問題である。これを我々は運命共同体として知恵を出してお互いが助け合ってやっていこうじゃないですかということでは、車両製作所があるというのはものすごい財産だと思う。JRが頑張って年間の欠かせないイベントにしてくれているが、そこに新潟市がもう少し付加価値をつけられないかとか、これまでの太いパイプがある新津地区に頑張ってもらって、新潟市もまちをよくするためにJRと意見交換していきたい。